

長野県革新懇ニュース

2019 年 9 月号
発行日 9 月 10 日
会 費 2,000 円
購読料 3,000 円 (送料込)
振 替 0510-3-15971

244

発 行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒 380-8790 長野市県町 593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

==== 今号の主な記事 =====

- 1 面 飯島春光さんインタビュー
- 2 面 1 面続き、近現代信州の歴史回顧
- 3 面 阿部知事に宗教活動で申し入れ、本の紹介
大北森林組合等補助金不正住民訴訟裁判、読者の声
- 4 面 随筆「雨よ降れ」「筆を折る」 窪島誠一郎さん
映画評論「新聞記者」内山到さん
漢字パズル

長野県革新懇

検 索



1953 年、埴科郡雨宮県村（現：千曲市）に生まれる。42 年間公立小中学校に勤務。
現在、子どもと親・教職員の教育相談室相談員、長野県歴史教育者協議会副会長、
NPO 法人松代大本営平和祈念館理事、千曲市人権教育推進員・講師。
著書：『ひいばあちゃんは中国にお墓をつくった』（かもがわ出版）など。

歴史を見つめる中で、

子どもたちが大きく変化

飯島 春光さん

(中国残留問題研究家)

衝撃を受けた 中国残留生徒の実態

Q 中国残留問題に関わりを持
つようになった経緯をお聞か
せください。

残留孤児の肉親探しは 80 年
代に大きく高揚して、井出孫
六さんのいう第 1 の帰国ラッ
シュがありました。その後
93 年の 9 月に 12 人の残留婦人
の方々が強行帰国する事件が
ありました。当時、中国残留
者については、身元引受人に
なる親族がいなければ帰国で
きない状況でした。残留婦人
の方々は終戦当時 20 歳前後
だったので、自分がどの誰
だかよくわかっていないし、日
本語も忘れていないので、帰
国の希望が非常に強かったわ
けです。ところが、戦後 50 年
近く経って郷里の実家の方に

親はいないし、残っている従
兄弟たちも 60 代になってい
て、40、50 人にもなる残留婦
人の一族を引き受けることは
とてもできないということだ
身元引受が拒否されていたん
です。そこで 12 人の残留婦人
の方々が、日本で骨を埋めた
いというところで強行帰国し
て、当時の細川護国首相に訴
えようとしたわけです。

その結果、親族でなくても
身元引受人がいれば帰国でき
る、中国残留邦人支援法が超
党派で成立しました。それを
契機に 90 年代後半に残留婦人
の一家がどつと入ってきました。
それが第 2 の帰国ラッ
シュです。このとき長野県に
も大勢が帰ってきたのです
が、郷里の実家には住めない
ので、長野市では篠ノ井のみ
こと川田地などを住居として
提供したわけです。残留婦人
とともに日本にきた一家は日
本語が全くできないわけだ
が、学齢期の子どもたちは篠
ノ井西小学校、篠ノ井西中学
校に入るようになりました。
私が篠ノ井西中に赴任した
のが 2000 年ですが、私は
恥ずかしながらそういう子ど
もたちがいるということをし
く知りませんでした。当時の
西中は大変荒れていました。
暴力事件が頻発し、怒号が飛
び交い、中国から来た子ども
たちに対しても大変なヘイト
が浴びせられるような状況で
した。彼らの中には、勉強が
全然わからないのでただ座っ
ているだけとか、小学校時代
から来ている子は日本語が多
少できるので、お祖母ちゃん
の病院に通訳でついて行っ
て、学校を休んだりすること
がありました。骨がある子は
荒れている日本人の子どもた

ちを相手に闘って、あわやと
いうところまでいくこともあ
りました。その彼が校長室で
訴えたそうです。自分は中国
では日本人と言われた（日本
の鬼の子どもと）。日本へ来
たら、今度は中国人と言われ
る。どうしたらいいんだと。
これを校長から聞いたとき
は、大変な衝撃でした。

彼らの歴史を 知ることが第一歩

そういうことが起こる背景
には、彼らの歴史を知らない
ことが元にあると思いまし
た。日本人が満州移民で向こ
うに行つて苦労して帰ってきた
て、本当なら温かく迎えるの
がしかるべき対応だと思っ
ますが、何もない。いかにし
て彼らを守るかといえば、き
ちんと歴史を教えるしかな
い。また、いじめている子ど
もたちも、日本人を助けてく
れた中国人の人に向かって「お
い中国人、中国へ帰れ」とい
うセリフを言えるのかと、生
き抜いてきたおばあちゃん達
に向かってそれが言えるのか
と、そんな恥ずかしい人間に
育てるわけにはいかないとい
う思いがありました。もう一
つは、祖父母とともに中国か
ら来た子どもたちが酷い目に
あう、そうすると何で俺を日
本に連れてきたんだと思う子
も出てしまう。それから、子
どもは言葉を早く覚えられ
るけれど、親はなかなか難し
いのですから、日本語を覚え
られない親をバカにするよう
な、そんな子どもになつても
らつては困ると思いました。
しかし、当時の私は、残留
孤児の肉親探しの動きなどの

情報は知っていましたが、具
体的な生身の人間の本当の大
変な状況を知っていないわけ
です。社会科教師でありなが
らきちんと歴史を教えられな
いという申し訳なさ、さらに
私自身が交通事故の後遺症で
体調が悪く満足に授業ができ
ないという悔しさ、この二つ
があつて何とかしたいとい
う思いを強く持っていました。
そこで、中国残留問題をなん
とか授業で扱えないかと考え
るようになりました。

教師も共に学ぶ 立場で授業を展開

Q 具体的にはどのような授業
展開をしたのでしょうか？

先生たちも歴史を知らな
い。もちろん目の前にいる子
どもたちの個々の歴史も知ら
ない。まずは満蒙開拓の歴史
を知ることがスタートです
が、2001 年に地理の授業
で導入として始めました。さ
らに、彼らが中国でどうい
う生活してきたのか知らなく
ては授業にならないと思い、
2002 年には中国へ行つて
現地を見てきたので、所属し
ていた 2 学年で授業を展開す
ることにしました。
当時、総合的学習が始ま
った頃で先生たちが対応に困
っていたので、私がその時間
をもらい受けて、先生たち
は一緒に聞いてもらうことに
しました。教師も共に学ぶとい
うスタンスで授業をやりまし
た。その時には目の前の子ど
もたちのお祖父ちゃんやお祖
母ちゃんの具体例は使えな
かったけれど、越川金子さん

という帰国者の方に来ても
らつて話をしてもらいまし
た。ちょうど残留孤児裁判の
始まった年でしたが、子ども
たちは非常によく聞いてくれ
ました。

祖父の体験を聞き 孫が劇的に変化

Q 子どもたちの反応はどうで
したか？

実際に帰ってきた人に証言
していただいたことで、中国
と繋がっている子どもたちは
苦しかった自分たちのことを
思うわけです。自分たちは中
国人と言われてさんざん嫌な
思いをしてきたけれど、越川
さんはそんなもんじゃなかつ
た、大変に苦労していたんだ、
自分たちも頑張らなくちゃ、
そういう感想を彼らは持ちま
した。また、日本人の子ども
たちも、歴史がよくわかっ
た、今まで酷いこと言つて申
し訳なかった、こういう感想
がずっと出てきました。そし
て、いじめはなくなってい
きました。
それでも中国から来た子ど
もたちはトラウマを抱えてい
ますから、まだなかなかクラ
スの輪に入れない子もいたわ
けです。周りの子たちが、今
までのようにいじめたりしな
いから、あんたもクラスに
入つておいでよと誘うだけ
で、一人の子がなかなか入れ
なかった。そこでその子を、
2 年生の春休みに「ちよつと
祖父ちゃんの話聞きたいん
だ。一緒に行こうや」と誘つ
て、実家のある湯田中まで
行つたんです。私が書いた本
【2 面に続く】